青少年交流の家という「場」で実現した国際理解教育

武原 智明

現在の勤務校等
広島県立生涯学習センター　社会教育主事

在外での勤務校／帰国年月
カイロ日本人学校／ 2009 年帰国

公立小学校勤務を経て交流人事で赴任した国立江田島青少年交流の家を会場に、様々な国際理解教育関係の取り組みを実施。2017 年からは、事務局を担当している広島国際理解教育研究協議会による帰国子女や在日外国人児童生徒を対象とした１泊２日のキャンプ「集まれ！小さな外交官」の会場を江田島に移し、2020 年には、教育事業として「多文化共生理解教育研修会」を開催。

実践・活動の内容

● 集まれ！小さな外交官

広島国際理解教育研究協議会による１泊２日のキャンプで、広島周辺に居住する帰国子女や国際結婚家庭や海外にルーツを持つ子どもたちを対象に実施している。教育委員会を通じて学校経由で告知するほか、海外派遣社員がいる企業にも社員への配布を依頼している。2020、2021 年はコロナ禍で中断したが、昭和の終わりから 30 年以上の歴史を持つ取り組みである。

私は 2009 年カイロからの帰国後に広島国際理解教育研究協議会に参加し、ずっとこのキャンプにかかわって、事務局をつとめてきた。2017 年に国立江田島青少年交流の家に赴任したのを機に、キャンプの会場を江田島に移した。広島市内からフェリーで海を渡るという非日常感もあったようで、子どもたちにも好評だった。

小学生から高校生までが数十人集まって、野外活動施設でごはんをつくり、キャンプファイアを楽しむ。クイズなどのアトラクションも用意されている。夜にはいくつかのグループに分かれて、「学校で英語の発音がきれいすぎてからかわれた」「近所の友達には海外の話をしにくい」「わかってもらえない」「外国から日本の学校に来たが、言葉がわからず、生活に慣れることができずに困ってる」など、普段の暮らしのなかで感じていることを語り合う。広島の帰国子女は首都圏・関西圏に比べて数が少ないので、周囲に同じような経験をした子がいないということも珍しくない。しかし、このキャンプに来れば、「あるある」「わかる」「そうだよね」と、共感しながら聞いてくれる仲間がいる。高学年や中高生のグループでは、話すうちに深い内容になっていくことも珍しくない。話し合いに参加する教員のほうも在外校勤務経験があるので子どもたちの気持ちを汲み取り共感することができる。また、子どもたちと同じように普段は学校で孤立しがちな帰国教員にとっても、貴重な交流の場になっている。

武原 智明

平成３０年６月吉日

帰国児童生徒保護者の皆様へ

主　催　広島県国際理解教育研究協議会
後　援　広島県教育委員会　（申請中）
　　　　広島市教育委員会　（申請中）

「第３３回集まれ！小さな外交官」のご案内

蒸し暑い日が続く今日この頃となりましたが，皆様方におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて，今年度も，次の要領で帰国児童生徒の集い「第３３回集まれ！小さな外交官」を開催いたします。海外での生活経験をもつ子どもたちが，海外での経験や帰国後の生活について語り合うとともに，シーカヤック体験やＢＢＱ，交流タイムなどを行い，楽しく仲間づくりのできる場になればと考えております。
ご多忙な折とは思いますが，是非ご参加いただきたく，ご案内申し上げます。

1．目　的　子どもたちが，海外における貴重な経験と帰国後の経験や悩みなどを語り合い，お互いの理解を深める場を提供する。

2．期　日　平成３０年７月３０日（月）～７月３１日（火）　1泊2日

3．場　所　国立江田島青少年交流の家　江田島市江田島町津久茂１－１－１　ＴＥＬ（０８２３）４２-０６６１

4．対　象　広島県内の帰国児童生徒，在日外国人児童生徒及び昨年度参加者
募集人数…３０名程度（小・中・高校生）　※ 海外生活の期間，帰国年度等は問いません。

5．参加費　３，０００円（宿泊費，食費，保険，写真，通信費等）

6．お申し込み先及びお問合せ先
下記アドレスにご連絡いただければ，返信メールにて参加申込様式を添付にて送付いたします。
必要事項を入力し，返信メールに参加申込様式を添付して返信をお願いします。（ＦＡＸの場合は裏面を使用）

〒737-2126　江田島市江田島町津久茂１－１－１　国立江田島青少年交流の家
広島県国際理解教育研究協議会
「集まれ！小さな外交官」事務局　武原　智明　宛
アドレス：gaikoukan2015@gmail.com　ＦＡＸ（０８２３）４２－０６６４
お問合せ：ＴＥＬ（０８２３）４２－０６６１

7．申し込み締め切り　平成３０年７月１４日（土）

8．日　程（6月17日時点の予定）　＊港までの送迎は保護者の方でお願いします。港からはスタッフが同行します。

7月30日（月）		7月31日（火）	
9:30	★広島宇品港・呉中央港集合 フェリー乗船→送迎バスにて会場へ	6:40	起床・洗面・清掃
10:30	受付開始	7:10	朝のつどい
11:00	入所式・開会式（海洋研修室）	7:30	掃除・片付け
11:10	仲良くなるためのつどい	7:50	【朝食】（レストラン）
12:00	【昼食】（レストラン）	9:00	退所点検
13:30	シーカヤック体験	9:30	異文化体験交流タイム（JICA）
16:30	【夕食BBQ】第２野外炊事場	12:00	【昼食】（レストラン）
19:30	花火	13:00	まとめ・閉会式
20:00	入浴	13:45	送迎バスにて各港へ→フェリー乗船
21:00	交流タイム		★広島宇品港・呉中央港解散
22:00	就寝準備・就寝		

● 多文化共生理解教育研究会

2020 年夏、青少年交流の家の教育事業として多文化共生理解教育研究会を実施した。

江田島は外国人が多く、その子どもが地域の学校に通学している。外国人の子どもたちが通う教育現場には様々な課題があり、それについて検討する場が必要だと考えた。

青少年交流の家では地域課題に対応した研修をおこなってきたので、広島国際理解研究協議会と JICA 中国との協力を得て「多文化共生」をテーマにプログラムを作成した。

国際理解教育の研究者を講師に招いての基調講演に続き、日本語指導実践報告、在外教育施設現地理解教育、青年海外協力隊体験記、JICA 参加型学習ワークショップ体験の４分科会を用意。その後、ディスカッションをおこなった。

大人に対しては行政の就労支援などが整っているので、テーマは子どもの支援に絞った。小中学校では日本語指導の教員がいるが、国語の授業の時だけ別の教室で違う授業を受ける程度のサポートしか行われていない。国によって小学校段階の算数の教え方が違うために、日本の小学校算数を踏まえて積み上げられる日本の中学校数学が理解できないなどの例もあるので、言語だけではなく、教科支援が必要だと知った。

対面式とオンラインのハイブリッド方式としたので、岡山、北海道、東京など遠方からの参加者もあった。

評価と課題

● 集まれ！小さな外交官

過去のキャンプ参加者が、大学生になってボランティアとして活動してくれることがあり、良い循環ができている。また、将来留学したいとか、海外で仕事をしたいという夢を持つ子どもたちも多く、長く継続していると、そういう外向きの気持ちを持つ子どもが育つのだということを実感している。日本の学校では孤立しがちな、海外とかかわりのある子どもたちの拠り所になれていると思っている。

2020 年からはコロナ禍で中断している。すでに子どもたちが自主的にオンラインで集まっているところもあるので、今後何かできることを考えて取り組んでみたい。

● 多文化共生理解教育研究会

遠方からの参加者もいて手ごたえを感じた一方で、地元教員の参加はなかった。

最も来て欲しいと考えていたのは、多文化の子どもたちがいる教室で教えている教員や、日本語指導者、そして行政の担当者だった。行政と日本語支援ボランティアとの間に不協和音が生じているケースがあるとも聞いていたので、「多文化共生」を言う前に、それにかかわる人がまずきちんと連携しないといけないと考えていた。その現場に届かなかったのは残念だった。

研究会は継続したかったが、2021 年春に異動したので実施できなくなってしまった。現任地の広島県立生涯学習センターでの開催を模索しているところである。

実践に至った経緯と提言

2007 年度から 3 年間、カイロ日本人学校に勤務した。全校で 40 人くらいの小規模校はアットホームでとても楽しかった。赴任前は不安もあったが、食事も治安も、心配していたほどの問題はなかった。日本や欧米とは違うイスラムの文化に触れることができ、学ぶことも多かった。エジプトでは、同じものでも外国人と現地の人では価格が違う。この「外国人価格」について最初は違和感があったが、所得の低い現地の人と、給料を何十倍ももらっている人の購入価格が違うのはあたりまえでそれが平等だという考え方に、なるほどと納得した。これは日本にいたら触れられなかった発想だったと思う。

教育についての価値観も変わった。ひとりひとりの子どもにとっての「平等」とは何かを考えるうちに、全員に同じものを提供することだけが平等ではないと思った。

帰国後は、広島県廿日市市の小学校に勤務した。帰国してすぐから、広島国際理解教育研究協議会に所属し、活発に活動をはじめた。現在も事務局を務めている。

勤務校では、自分の海外経験を直接活かせる場はあまりなかった。全校朝会で 10 分くらいスライドを見せて紹介する機会はあったが、自分のクラスだけ別の授業をするわけにもいかないので、算数の授業中にピラミッドや古代文字の話題を少し紹介するくらいだった。国際理解教育はなかなか実現できず、もどかしさを感じていた。ただ、小 6 社会科の国際貢献の単元で、JICA 青年海外協力隊経験者などをゲストスピーカーに招くことがあり、そういう時にカイロで培った人脈が活きたことはあった。その後、JICA の国際協力レポーターに応募し、学生や社会人に混じってスリランカに行き、日本が国際貢献をして

いる様々な施設を見学した。

2017 年に、交流人事で 企画指導専門職として国立江田島青少年交流の家に異動した。江田島はかきの養殖がさかんだが、漁業従事者の高齢化が進んで、フィリピン、ベトナム、中国などからの労働力に頼っている。外国人の労働者の子どもたちは地元の学校に通っている。前任地の廿日市市には外国人はほとんどいなかったので、とても驚いた。地元も学校現場で進む多文化共生の現状を知って、自分も国際貢献として何かをしたいと考えて「多文化共生理解教育研究会」を企画した。

江田島では「集まれ！小さな外交官」「多文化共生理解教育研究会」のほかに、広島国際理解教育研究協議会の英語部会事業であるグローバルチャレンジキャンプも開催した。１泊２日で英語を中心に海外の言葉や文化触れるイベントで、広島大の留学生と英語使った交流をするもので、そこにもフィリピンにルーツを持つ子どもたちが参加していた。日本語はもちろん英語も話せない子どもが日本にいるということを、ここでも実感した。

このほか、青少年交流の家の母体である日本青少年教育振興機構では毎年ミクロネシアから子どもと引率先生を招いているが、その広島部分を担当。広島観光・江田島の小学校との交流・県内家庭でホームステイなどを実施した。これらは、江田島に赴任したからこそできたことだったと思う。

私の場合は、広島国際理解教育研究協議会と江田島青少年交流の家という場があって国際理解教育につながる企画を実現できた。学校で、個人的に取り組むのは難しかったと思う。

県から派遣されたので、カイロでの経験は県に返さないといけないという意識はずっと持っていたが、自分の職場では貢献できる場があまりなかった。しかし、研究会ならば役に立てるので、その活動のなかで少しでも返そうと思ってやってきた。研究会の中には忙しくても頑張っている仲間がたくさんいるので、自分もやめられないと思っている。

しかし、研究会に新しく参加して在外校勤務を活かそうとする人は多くない。在外校勤務は自分のキャリアのためと割り切っている人もいる。教育委員会にも、今のところ帰国教員の経験を活かすという発想はあまりないように思われる。

2021 年から広島県立生涯学習センターで社会教育主事として勤務している。広島県教育委員会所轄で、社会教育全般を取り扱う部署である。公民館活動、子育て支援、防災、そして最近は住民の生きがいづくりをテーマとする生涯学習活動の支援が多い。

社会教育の中においても、国際理解や多文化共生は大きな柱のひとつではある。しかし、なかなかそこまで手が回らないのが現状で、どうしても後回しになってしまっている。さらに今年着任したばかりなので、すでに前年度からスケジュールが決まっているものがほとんどで、今のところは新しいものを入れる余地がない。

しかし、社会教育の中の家庭教育支援の分野でも、外国人の保護者が増えていることによって外国語対応などが大きな問題になってきている。ここに、国際理解の視点を少しずつでも入れていければと考えている。

江田島青少年交流の家で実施した「多文化共生研究会」は、今年度は開催できなかったが、次年度以降再開するつもりだ。子どもの教育支援のテーマをもっと発展させて、現場で頑張っている教員や支援者にも参加してもらえる大きな大会に育てたいと思う。仲間や、一緒にやってくれるスタッフを募集中である。